

88 愛知医専校長 熊谷幸之輔 — 名大をひきいた人びと② —

名大および前身諸学校の学長や校長のうち、最も長くその職にあったのが、医学部の前身にあたる愛知医学校や愛知県立医学専門学校（愛知医専）などの校長を33年間にわたって務めた、熊谷幸之輔（1857-1923）です。

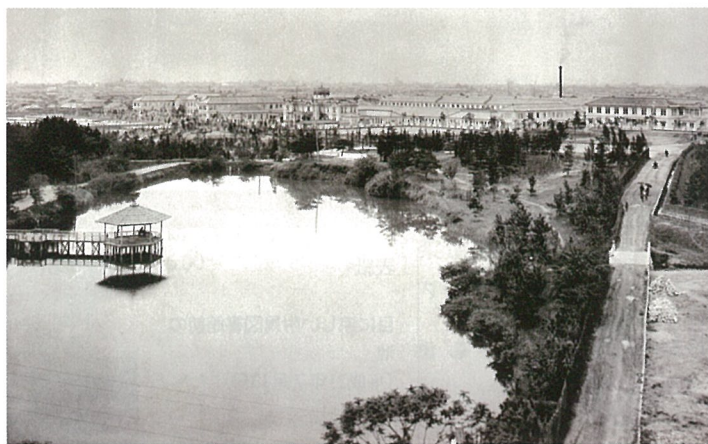
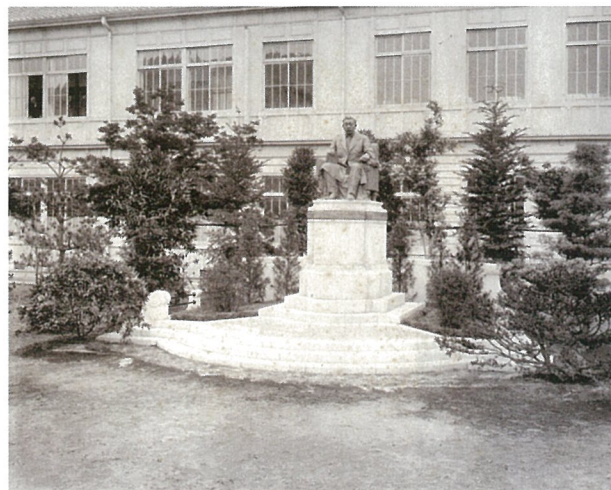
安政4年、現在の秋田県仙北郡美郷町六郷に生まれた熊谷の生家は、地元にある神社の神職の家柄でした。本来なら長男の熊谷が家を継ぐはずでしたが、志を立てて16歳で上京、1881（明治14）年に東京大学医学部を卒業しました。その同期生の1人に、森鷗外がいます。

そして卒業直後の1881年、愛知医学校の後藤新平校長から同校の将来を担う人材として期待され、一等教諭として名古屋に赴任しました。当時の医学士はきわめて貴重な存在で、その給与は後藤校長をはるかに上まわっていました。早くも赴任した年に外科医長に就任しています。そして後藤が名古屋を去った1883年、愛知病院長、まもなく愛知医学校長となりました。時に26歳です。

その校長時代、特にその前半は、存続にかかわる大きな危機が連続するなど、苦難の時代でもありました。

政府は1887年、全国5学区に1校ずつ設置された高等中学校の医学部に昇格できなかった府県立医学校の、地方税による経営を禁じました。これによって、ほとんどの府県立医学校が廃止の憂き目にあいます。愛知医学校も危機に直面しましたが、熊谷は高等中学校医学部長の椅子が用意されていたにもかかわらず、あえて愛知医学校に残り、教職員を一丸とする諸改革を断行して何とか経営を続けました。また1891年には、浄土真宗三派が愛知県に対し、愛知医学校と愛知病院の払い下げを請願するという騒動が起こり、熊谷もその渦中で悩み苦しみました。

こうした苦難のうえに、現在の名大医学部があります。そして熊谷は最後の仕事として、愛知医専の鶴舞への全面移転を成し遂げ、1916（大正5）年に高齢と病気を理由に職を辞したのでした。



1	2	3
4		

- 1 熊谷幸之輔
- 2 熊谷の在職25年記念絵はがき（1906年、附属図書館医学部分館医学部史料室所蔵）。
- 3 熊谷が校長を辞してまもなくの1918年、校友会の募金によって愛知県立医学専門学校に建立された熊谷の銅像。戦時期の金属供出によって撤去され現存していないが、戦後に胸像が再建された。現在は医学系研究科基礎医学研究棟4階に置かれている。
- 4 鶴舞公園の竜ヶ池から見た、移転当時の愛知県立医学専門学校。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話 052-789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。